

記念寄稿

—現及び元教室員—

※50 音順とさせていただきますが、編集の都合上前後しておりますこと、ご了承願います。



記念棟から望む筑波山 877m 1回登頂

自治医大での5年間

北里大学 薬学部 微生物薬品製造学教室

大城 太一

石橋先生、ご退任おめでとうございます。自治医大では、ポスドクとして、5年間（2007年から2012年）もお世話になり、研究者として大きく成長させていただきました。そして、アメリカ留学、帰国、北里大、名古屋大と移動していく私を、気にかけていただき、北里大学 薬学部 微生物薬品製造学教室 教授として、石橋先生の記念誌に寄稿できることを嬉しく思っております。

2007年、北里大学 薬学部 供田洋先生が代表者となった独立行政法人 医薬基盤研究所（保健医療分野における基礎研究推進事業）のプロジェクト「コレステロールアシル転移酵素アインザイム ACAT2 選択的阻害剤の開発」がスタートしたことが最初でした。その当時、石橋先生と供田先生のご関係は存じていましたが（供田先生の寄稿もご参照ください）、私がこんなに長く、そして深く、お世話になるとは思っておりませんでした。このプロジェクトでは、微生物資源から発見されたピリピロペンやボーベリオライドをリードに ACAT2 選択的阻害剤（現在は、SOAT2 選択的阻害剤と呼んでいます）を開発していくもので、生物活性評価グループ（供田 G）、誘導体合成グループ（長光 G）、*in silico* 解析グループ（ファルマデザイン G）、そして、モデル動物での *in vivo* 評価グループ（石橋 G）から構成されていました。私は、モデル動物での薬効評価に大変興味があり、また自分の持っている技術や知識を広げたいと思い、供田先生にお願いし、石橋先生の研究室（医局）で研究することになりました。その当時、基礎研究を統括していた野牛宏晃先生、そして田副文子さん、永島秀一先生、高橋学先生に動物実験のセットアップをサポートいただき、その後、岡田健太先生、大須賀淳一先生、王さん、バイサさん、星野さんなどなど多くの先生方、留学生や技術補助員の方々と研究に集中することができました。そして、SOAT2 選択的阻害剤ピリピロペン A やその誘導体を用いたマウスでの *in vivo* 評価について、*Arterioscler Thromb Vasc Biol* や *J Pharmacol Exp Ther* に報告することができました（まだ宿題となってしまう、データはたくさんありますが、、、）。特に、ATVB はリバイスに1年もかかってしまい、ご迷惑をかけましたが、**accept** された時は、非常に喜んでいただけたのを覚えております。さらに、*Cell Metab* や *J Lipid Res* などに発表した研究に参加できたことは、私の大きな自信と成果になっております。

あと、石橋先生には、夜の会でもお褒めのお言葉をいただき（笑）、納涼会、忘年会、医局旅行、東京のご自宅でのお食事会などでは、美味しいお酒をたくさんいただきました。特に、学会出張先（2009年の下関での動脈硬化学会、那須での勉強会や2017年のアナハイムでのAHAなど）でも、楽しい思い出となっております。

そして、私が教授に着任した時も、フィールドプレイヤーから監督になった私を心配しながらも喜んでいただきました。まだ論文になっていない宿題（研究成果）がありますが、それは早急に片付けないといけないと思っております。

最後に、石橋先生、これからもご健康とご活躍を祈っております。そして、まだまだ、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

バッキー魂は永遠に

医療法人北斗会 宇都宮東病院 大須賀 淳一

石橋先生との出会いは今から30年以上前になります。私が東大の第三内科に入局してミシガン大学の臨床見学に行かせてもらった時に、石橋先生がご留学されていたダラスで初めてお会いしました。入局前に研修していた虎の門病院の部長だった村勢敏郎先生から、石橋先生はとてもタフな印象をお伺いしていたので、会った時は大変緊張した記憶があります。ラボも見学させてもらい、留学先での研究や生活の話を聞かせていただいたのは記念となりました。

それから2年くらいして石橋先生が帰朝されました。東大第三内科の2研/11研は代謝学の中でも脂質代謝を中心として研究をしてきました。当時、発生工学を用いた *in vivo* の研究が全盛期で、東大のラボでは島野仁先生や嶋田昌子先生がトランスジェニックマウスを用いて研究されていました。石橋先生はダラスの研究室でES細胞を用いたジーンターゲティングの手法で、LDL受容体やコレステロール7 α 水酸化酵素などを欠損したマウスを作成し研究をされていました。帰朝された石橋先生の一番弟子になった私は、ノックアウトマウス作成の基本技術を伝授していただきました。

サザンブロット、ゲノムのライブラリーの作成とクローニング、ターゲティングベクターのサブクローニング、ES細胞への遺伝子導入と変異体のスクリーニング、マウス胚盤胞へのマイクロインジェクションと偽妊娠マウスへの移植、などたくさんプロセスがありました。故山田信博先生が大型の研究予算を獲得されて、実験設備にも恵まれましたが、研究生活は私にとって毎日が挑戦的でうまくいかないことが8-9割でへこむことも多かったです。うまく行かない時は頭もマイナス指向になってしまっていました。ES細胞の変異体の検出をサザンブロットで行った時、私には見えなかったバンドを石橋先生は冷静に見つけてくれました。たくさん励まされながら研究を続け、約2年を経てようやく最初のマウスが出来ました(本当に遅くて申し訳ございませんでした)。

トランスジェニックマウスは遺伝子発現のプロモータを変更することで表現型の違いなどがありますが、ノックアウトマウスの示す真実はコンディショナルでない限り一つしかありません。論文を最初に発表できないと負け組の世界だったのです。私が最初の取り組んだ遺伝子は先を越されてしまい本当にがっかりしましたが、研究を統括していた石橋先生は私よりもっと落胆していたことでしょう。よく認知され研究の進んだ遺伝子は欠損した場合の表現型が想像しやすいですが、人知の及ばない結果になることもあります。ある遺伝子のノックアウトは肥満になり飢餓に弱い表現型が予想されました。実際、そのようなデータが出てきて論文にまとめられ一流雑誌にはほぼアクセプトされたことがありました。しかし、マイナーリビジョンの時期に、データは捏造されていてそもそもマウスも出来ていなかったことが判明しました(もう時効だから暴露します)。実験結果の再現性がなかったのです。論文を引き下げることにした時の石橋先生のお気持ちを察すると、さぞかし悔しかったことと思います。

そんなこともあったノックアウトプロジェクトですが、私も含め6名の研究者に石橋先生の技術が継承され、9種類の遺伝子でノックアウトマウスを作成することができました。毎週水曜日の夕方に開催されるデータクラブでは、石橋先生の結果に対するシビアな評価と意見で耳にタコが出来そうでしたが、そういう石橋先生のお姿はサイエンスに真摯であるべきことを後輩たちに暗示していたのでしよう。私は石橋先生のご期待に沿えずアカデミーに残れませんでした。優秀な後輩たちが石橋先生の足跡を発展させてくれることでしょう。長い間本当にお疲れ様でした。しかし、まだまだ石橋先生のご意見が必要だと思うので、今後ともご指導宜しく願いいたします。



2014年10月19日 糖尿病ウォークラリー 井頭公園

石橋俊先生との思い出

内科学講座 内分泌代謝学部門

岡崎 啓明



この度は御退官と御開業、誠にありがとうございます。先生には長きに渡りご指導をいただき、本当にありがとうございました。

先生に初めてお会いしたのは、内科の1年目の研修で、東大病院を第二内科-第三内科-神経内科と回っていた頃でした。石橋先生がご在籍されていた第三内科の研修の時はあまり接点がなかったのですが(とはいえ、その後、淡々と研修している様子が良かったと言っていたので、見ていてくださったことをありがたく思いましたが)、神経内科の研修中に、頭蓋咽頭腫でホルモン補充療法中の患者さんの管理で難しいことがあり、ご相談のお電話をしたのが、先生と直にお話した最初でした。実はこの患者さんの主治医はもう一人の別の石橋先生だったのですが、人違いをしてしまったおっちょこちょいの研修医の突然の電話にも、先生はとても丁寧に答えてくださって、フランクないい先生がいるのだなあ、とほっとしたのを覚えています。それから時折研究室に誘ってくださるようになり、出入りをしているうちに、先生が高校の先輩でもあり陸上部や山岳部の先輩でもあることを知り、ご縁を感じているうちに、いつのまにか研究室(東京大学第三内科二研十一研)に入門、となりました。

臨床も研究も、いろいろなスタイルがありますが、ひとつひとつの事実を大切にしながら、シンプルで重要な疑問を心に抱き、問題を解決するために適する方法を考えながら、あらゆる可能性を考えつつ、直球勝負で挑んでいく、そんな先生のスタイルは私にはとても心地よいものでした。大学院時代は、臨床では、先生の字がびっしり書かれたカルテでひそかに勉強させていただきながら、大ベンとしてご指導いただいた病棟症例や、引き継いだ外来症例などから多くを学ばせていただきました。研究では、脂肪細胞のリパーゼ、動脈硬化の泡沫病変のマクロファージのリパーゼの新規同定という未開拓のわくわくする仕事をテーマに割り当ていただき、文字通り日夜没頭しました。そんな毎日は、今思い返しても幸せとしかいいようがありません。夜通し4℃のカラム精製をして朝を迎え、早朝に出勤された先生と、おはようございます-さようなら、というご挨拶をしていたことを懐かしく思い出します。その後リパーゼの同定に至り、生体内での役割があることを知るにつれ、じわじわと嬉しかったものですが、何か形になった後よりも、形になる前の、先が見えないなかでの汗そのものが、自分には大きな喜びでした。筋トレになるくらいノートや資料を持参したデータクラブ、リポ蛋白研究で先生からも沢山採血させていただいたこと、ざっくばらんが持ち味の研究室の飲み会やカラオケ、卓球大会、スキー旅行、入局一年目に連れて行っていただいた屋久島山行、谷川岳沢登りなどなど、思い出は書き尽くせません。

100年残る仕事に憧れて、大学院時代に読んで感激した論文があり、そんなラボに留学したいと思ったところが石橋先生の御留学先であったのは、すでに先生の感化を受けた証拠かもしれませんが、ご紹介いただいて留学したダラスのUT southwestern では尋常でないオーラを放つ Brown & Goldstein 両博士のご指導のもととても良い勉強をさせていただきました。その後東大二研十一研に戻り、研究室の運営をする立場となりましたが、新しいラインの臨床研究や基礎研究を発展させることができたのも、一人一人の成長を常に気にかけてくださった先生のおかげと感謝しています。この間、自治の先生方とも、厚労省研究班の臨床のお仕事、基礎のお仕事など、多くの仕事をご一緒し、とても良い勉強をさせていただきました。臨床も研究も、仕事がより広く世の中に役立っていけるような方向に伸びてきたように感じます。先生は、博い知識をお持ちでありながら、「餅は餅屋」といつも謙虚にお話しされていましたが、何か必要な際にはその道の専門家の先生を多々ご紹介いただきました。基礎から臨床まで、国内外問わず、多くの先生方に先生を通じて知り合うことができ、多く学ばせていただいたことに心から感謝しています。

ガンジーの言葉に、人生は真理と愛を探究する一つの実験だ、というのがあります。石橋先生からは、そのような人生という意味も含めて、実験の精神の真髄を学ばせていただきました。実験は、多くの可能性を考えなければならない、その可能性をひとつひとつコツコツと解決していく必要がある、解決に当たっては一人一人の創造性が大切であり、その個性をもとにして、それぞれの未来がひらけていく。そして何より、限られた時間の中で最も重要でシンプルな問題に立ち向う必要がある。臨床でも研究でも人生でも役立つこのような真理への向き合い方を教えていただいた石橋先生には感謝の気持ちで一杯です。新しい次のステージへと向かわれている先生の、第二あるいはさらに第三の人生の、新たな発見と発展とご多幸を、心よりお祈りしております。

石橋先生、晴れて定年をお迎えになられ、心よりお祝い申し上げます。そして本当にお疲れ様でした。

私は 2007 年から入局させて頂きました。石橋先生は、以前から比類なき研究心とアイデア、さらには首尾一貫した研究の方向性と実行力を有し、常に探求心を持ち続け、しかも一流専門誌に多数の貴重な報告をされており、当時、私は深く感銘を受けていた医局に入局することに、少々不安はあったものの、それ以上に大きな期待をもって栃木県に来たことを鮮明に記憶しております。

着任後には、私がまだ駆け出しの頃で、いろいろと厳しく御指導を賜りましたが、そんな私にも常に目をかけて頂き、特に海外留学の機会を頂いたことや、岩手医科大学への異動に関しましては、これも石橋先生のご尽力あってのことであり、深く感謝申し上げます。また、私が医局長として医局をまとめることができたのも、石橋先生の御指導があつてこそその所産であり、今となつては石橋先生と過ごした 15 年間は、大変貴重な思い出であります。

教授退官後にはご実家に戻られて地域医療に貢献されていることと思いますが、石橋先生の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

石橋俊先生のご退任に寄せて

自治医科大学附属病院内分泌代謝科 非常勤医員

岡田 修和

石橋俊先生、長いあいだお疲れ様でした。

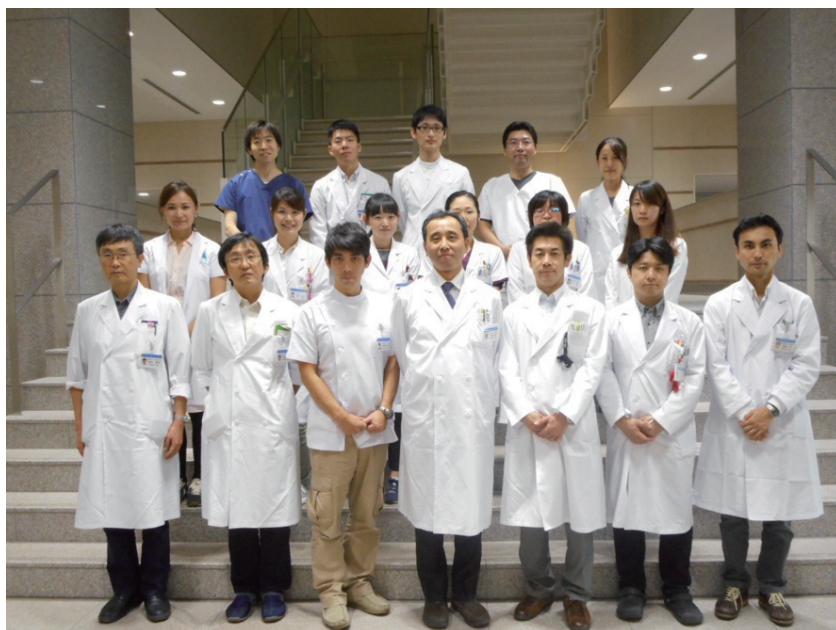
この文章は、ご退任後に書いています。

自治医科大学附属病院の職階をヘイタイのクライでいいますと、教授・准教授が将官クラス、講師が佐官クラス、講座助教が尉官クラス、病院助教が下士官クラス、といったところでしょうか。そのたとえからすれば、石橋先生が大将として赴任されたとき、わたくしは下士官クラスで、わたくしが退職したときも、わたくしは下士官クラス、石橋先生は大将でした。わたくしは、早くから昇任の軌道を降りていた者でしたが、定年まで勤めることができたのは、石橋先生のおかげによるところが大きく、感謝してもしきれないものがあります。

この稿を起こすにあたり思いをめぐらせてみて、石橋先生はタフなただとあらためて思いました。ひとつは、逆風に折れなかったところからきています。この逆風というのが、わたくしが見聞きしたところからは、いくつもあつたと拝察され、詳しいところは省きます。もうひとつは、膨大な量の仕事をこなされたこと。最後の何年かこそ普通の時刻に帰られていましたが、大半の年月は、いつも遅くまで教授室に明かりが点いていて、さらにときどき休日にも職場に顔を出されていました。現在のように厳格に働き方改革の制度が適用されていたら、アラートを鳴らされるのは必至だったのではないのでしょうか。

そして、石橋先生は教授として 65 歳で定年を迎えられ、定年で退任された後は開業されました。ご退任前最後にお会いしたとき、開業されるとおっしゃるとともに、現在気力も体力も知力も充実している、ということをおっしゃっていて、それが印象に残っています。やはりタフだなあ、アスリートとして普段から身体を動かすことに親しまれていたことが、趣味と実益を兼ねていたのだなあ、と思います。

現在も精力的に仕事をされていることと思います。クリニックを開業された地域のかたがたにとって、心強いのではないのでしょうか。



石橋先生のご退官に寄せて

新小山市民病院 糖尿病・代謝内科

加藤 夏果

石橋先生、長年に亘り自治医科大学内分泌代謝学の発展にご尽力され、無事ご退官されますことを心よりお慶び申し上げます。こうして寄稿の機会を戴きましたことは、望外の喜びです。

入局したばかりのころ、初めての忘年会の席で先生の右隣の席を戴いて、緊張して座っていたときのことを思い出します。雲の上の存在である石橋先生が非常に気さくに話しかけてくださったことが嬉しく、緊張を解いてくださる優しいお声がけに、この医局を選んでよかったと安堵したものでした。医局員のリクエストで被り物をしてくださったり、ビンゴに楽しそうに参加されていたりと、親しみやすいお姿が記憶に残っています。

毎週のカンファレンスや学会発表の予演会などでは、私の稚拙なプレゼンテーションやアセスメントについて基礎的なところからご指導いただきましたし、専門医試験の出願の際には図々しいご指導の願いを暖かく受け入れてくださり(ご自宅での奥様のおもてなしにも大変感激いたしました)、とても嬉しかったです。また、コロナ禍を契機に教授回診がなくなってしまっても、毎日病棟の医師室にお顔を見せてくださって、病棟の様子に耳を傾けてくださること、見守っていただいている安心感がありました。今先生のお姿を廊下で拝見できないこと、とても寂しく思います。

先生が自治医科大学内分泌代謝学の教授としてご功績を重ねられた長きにわたる歴史においては、私は先生からご指導を受けたたくさんの方々の末席に連なるたった一人の未熟者にすぎませんが、先生から戴いた教えは私の中に深く刻まれております。誠にありがとうございました。今後の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りしております。

石橋先生には2005年春から18年もの間ご指導を賜りまして、誠にありがとうございました。研修医3年目の秋に、石橋先生のお部屋にお伺いしたとき、私に来るとは予想だにしていなかったご様子で迎えてくださったのを今でも覚えております。多くの同期や先輩に恵まれた学年でした。

入局2年目には、「厚労省の医系技官になる」と息巻いて出願しましたが、その際も快く(?) 推薦を下さいました。結局不合格でしたが、その後医局に戻ってからも変わらず見守って下さいました。また大学院に入学する際に、統合生理学部門で膵β細胞インスリン分泌調節の研究がしたい、と申し上げたときも、ご自身の研究への参加を強要することなく「行って来い」と送り出して下さいました。

大学院卒業後に、先生が班長をされていた厚労科研の事務局を引き継がせていただきました。(これが本当に大変でした。。)多くの脂質代謝を専門とされる高名な先生方を束ね、未来の絵図を描いて、実現に向けて活動される先生を間近で拝見することができました。指定難病の診断基準作成に向けての作業や、事務局業務を円滑に進めるための心得をご指導いただきました。これらを通じて、医療現場だけでは得ることのできない本当に貴重な経験をさせて頂きました。

現職の看護学部への異動に際しましても、ご理解を示していただき大変感謝しております。これまで不肖の私がなんとかやってこられましたのも、ひとえに自治医科大学内分泌代謝科をまとめ上げてこられた石橋先生の温かいご指導のおかげです。おじい様ゆかりの地で新たな夢に向かって進まれる先生の御健康と御多幸をお祈りして、お祝いの言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。



2019年 忘年会

ご指導ありがとうございました。

甲賀 裕希子

このたびはご退官誠におめでとうございます。

私は6年間石橋先生の下で研鑽を積ませていただきました。初期研修の2年間で県外の市中病院で行った後の入局で、当時は専門性を持った研修を受けることに対する期待と共に、初期研修から持ち上がりの入局者が多い環境に対する不安も持っていました。先生と初めてお会いしたのは初期研修2年目に医局見学に伺った際でしたが、印象に残っているのは2度目にお会いした、面接試験後に院長室から医局へご一緒させていただいた時のことです。私の出身地や出身大学に関連してお知り合いの先生や登山の話などをしてくださり、先生の穏やかなお人柄に触れ、その不安が払拭されたことをよく覚えております。入局してからも、石橋先生を始め温かくかつ熱心にご指導くださる先生方に囲まれ、充実した研修を受けることができました。22年という長きに渡る教授職をご退官されるという記念すべき場に医局員として立ち会うことができたこと、最終講義を聴講できたこと、大変貴重なお時間をいただきました。

先生の下で過ごさせていただいた時間は、自分にとって内分泌代謝科医としての礎となっております。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

石橋先生の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

石橋先生へ感謝を込めて

山梨大学 山梨 GLIA センター 坂井 謙斗



ご退官おめでとうございます。医師そして研究者として最前線で長くご活躍され、数々の功績を挙げられてきた先生にご指導いただいた経験は、私の研究生活の財産となっています。今回、感謝しても足りない先生への寄稿文をご依頼いただき、喜んで筆をとらせていただいた次第です。

先生との出会いは、私が修士課程2年の時です。当時所属していた北里大学 供田研との共同研究の一貫で、石橋研で動物実験を担当することになりました。それまでがむしゃらに実験をしていた当時の私にとって、頭を使いながら緻密に研究をされる石橋研のやり方を知ることができたのは、私が初めて研究者としてスタートラインに立ったきっかけになったと感じています。

その後も長いこと気にかけていただき、幸いなことに石橋研でポスドクとして研究を続ける機会をいただきました。ポスドク時代は、生活習慣病分野で脂質代謝や免疫を絡めた研究に携わりました。この際の主な業績として、2018年にATVB誌への論文投稿と2019年の自治医大 優秀論文賞に採用いただくことができました。また、海外での研究発表の機会をいただき、ひどい英語でフランスに乗り込んで行ったのは今では良い思い出です。

現在は神経科学分野で研究を続けています。神経科学は脂質代謝や免疫関連と複雑に絡み合っており、現在の研究生活はポスドク時代に石橋研で学んだ知識・経験に支えられています。先生の弟子の一人として恥ずかしくないよう、今後も研究者として頑張っていきたいと思います。先生のこれまでのご経験と幅広い見地から、今後ともご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。今後ますますのご健勝と末永いご多幸を心よりお祈り申し上げます。



2013年リヨンEASにてPaul Bocuse氏と



春の石裂山から男体山を望んで

石橋俊先生、ありがとうございました。

櫻井 百恵

石橋先生、ご退官を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

カンファランスや論文作成ではご指導頂き、誠にありがとうございました。医学的な知識はさることながら、歴史や文学、地学などあらゆる分野に精通されていらっしゃる事が、医局行事等でのご挨拶の端々に感じられ、敬服致しておりました。様々な事象に対する深い探求心こそ、先生から一番学ばせて頂いたことに思います。

そして先生との思い出はやはり奥鬼怒登山です。道中、前日までの悪天候による倒木があり、道が分からなくなった際も冷静に、「元来た道を一旦引き返そう。研究も同じだ。失敗したら正しかったところまで一度戻り、そこからやり直すんだ。」と仰っておりました。そして正規ルートが無事発見し、下山することができました。下山後の加仁湯温泉での夕食は格別でした。

先生から学んだ精神の元、これからも自治医科大学内分泌代謝科の医局の発展に少しでも貢献できればと頑張る所存です。ご開業された先生からお送り頂く紹介状に、身が引き締まる思いが致します。新天地での先生の益々のご活躍を祈念しております。



2018年10月日光金精峠から根名草山を超えて奥鬼怒温泉郷に到着

石橋俊教授に御礼申し上げます

医療法人 長崎病院 内科

高橋 学

石橋教授が長年にわたるご尽力を終え、ご退官されるとのことで、心よりお祝い申し上げます。

私は自治医科大学に 2002 年に入職し、初期研修での内分泌代謝科研修を経て、臨床だけでなく、マウスを用いた基礎研究ができることに魅力を感じて、2005 年より入局しました。石橋教授には、現在の所属に異動する 2022 年の 10 月まで 17 年もの長い間多くのことをご指導いただき、勉強させていただきました。そして、臨床、研究、医局の運営など多くのことを経験させていただきました。

臨床では内分泌代謝科の初期研修からご指導いただき、その後に各専門医、指導医の取得をすることができました。研究は 2007 年に大学院に入学してからスタートでした。いろいろと実験に取り組みたいと思っておりましたが、実際は簡単なものではなく、石橋教授、野牛宏晃先生のご指導のもと取り組んだマクロファージ LPL 欠損マウスを用いた動脈硬化、肥満の研究に 15 年費やすことになりました。データクラブで常々、「Just do it」のお言葉をいただき、いろいろご提案いただきましたが取り組めないことも多く、また不器用で結果を出すことができず申し訳なく思っていました。論文化まで時間がかかった分、共焦点顕微鏡を用いた脂肪組織の免疫蛍光染色のデータを掲載できたのが喜びでした。また、2 名の学位研究のサポートをする機会をいただきました。

その他に原発性脂質異常症の患者さんのリポタンパクの解析や遺伝子診断をする機会をいただきました。特に次世代シーケンサーを用いて、数名の方の原因遺伝子を特定できたことは貴重な経験でした。

これらの研究を通じて、石橋教授のこれまでの多くの業績をたどり、また在籍中に様々な新しい研究へアイデアを拝見する中で、研究への情熱と飽くなき探究心に大変感銘を受けていました。

臨床、研究以外にも多くの思い出があります。石橋教授の研究室を通して、多くの方々とディスカッションし、交流することができました。さらに、ご自宅に新年会でお邪魔したり、ADA や AHA に参加し、観光や食事をご一緒したことも懐かしい思い出です。

最後になりますが、このたび石橋教授がご開業され、新しいステージで益々のご活躍されることを心より願っております。そして、石橋教授のご指導のもと、多くのことを経験する機会をいただいたことに感謝申し上げます。今後ともどうかご指導の程よろしく願いいたします。

「感謝」

内分泌代謝科 OB 武井 暁一

石橋先生、ご退任おめでとうございます。大学 5 年生時の病院見学で、はじめてお会いしました。やさしくお声がけいただいた記憶があります。その後、2013 年に入局し、臨床医として、研究者として、そして社会人として多くのことを御指導いただきました。

外来で数多くの患者さんを診療されていたことがとても印象に残っております。また、回診で一人一人丁寧に診察され、治療方針を御指導いただきました。それだけでなく、毎朝病棟の医師室にお見えになり、急患や重症患者さんの確認をされ、ときに相談にのっていただきました。大学院生となってからは、さらに多くの御指導をいただきました。研究は、とても順調とは言えず、なかなか結果が出ない苦しい時期が続きました。ちょうど子育ても重なり、疲労が重なり何度も辞めようと考えました。しかし、踏みとどまり、立ち向かっていったのは、石橋先生のおかげだと思っております。最初の投稿における、年末から年始にかけての論文作成では大変お世話になりました。怒涛の御指導の連続に圧倒されましたが、何とか乗り越え、1 年遅れで無事、大学院を卒業できました。夫婦そろって Diabetes 誌に論文掲載となり、妻の祥子さんはその表紙も飾ることができました。二人の子育てをしながら、困難の連続でしたがとてもよい思い出となりました。後年では医局運営、組織に関して多くの御指導をいただきました。困り果て、突然お電話させていただいたこともありました。親身に相談にのっていただき、とても救われました。

これまで、大変ありがとうございました。そして、これからも御指導のほど、よろしく願いいたします。

石橋先生へ感謝を込めて

自治医科大学 内科学講座 内分泌代謝学部門

武井 祥子

教授職を終えられ、無事ご退官を迎えられることに対し、心よりお祝い申し上げます。先生に初めてお会いしたのは、大学 5 年生の病院見学の時でした。緊張していましたが、やさしく声をかけていただいたことを覚えています。初期研修医として就職後も、内分泌代謝科への入局も考えており、石橋先生、大須賀先生、永島先生を中心に臨床において熱く指導いただきました。コロナ禍より以前の教授回診では患者さん一人ひとりを丁寧に診察されていたことが印象に残っております。

入局して大学院に入学後はちょうど出産の時期と重なり、育児と仕事、研究の両立に悩むことも多々ありました。子供を朝から保育園にあずけ、一度帰宅して夕食とお風呂を済ませてから、また夜間保育に預けてマウスの解剖をすることもあり、大変苦しい大学院生活でした。しかし、何とか乗り越え夫婦そろってDiabetes 誌に論文掲載ができ、また表紙を飾ることができたのは、石橋先生に多くの御指導をいただいたおかげです。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。今後ますますのご健康とご活躍を祈念しております。

石橋俊教授のご退任に寄せて

神戸製鋼所真岡製造所診療所

竹田 幸代

石橋先生、自治医科大学内分泌代謝科の教授としての 22 年間、本当にお疲れ様でした。そして内分泌代謝科の医局員として入局させていただいてからの 12 年間、いろいろと本当にお世話になりました。

先生と初めてお会いしたのは 3 年目のレジデント時代でした。学生時代に専門としたいと思っていた診療科を回った後で、その科を専門として長きにわたり頑張っていくことが難しいのではと悩み始めていた頃でした。3 年目の 10 月からの 3 か月間の研修でしたが、入局を決めかねていた私には内分泌代謝科での研修が本当に魅力的であったことを覚えています。あの頃の先生は私にとっては本当に雲の上の方でしたが（現在もちろん！）、回診中やカンファレンス中緊張していたにも関わらず根気強く耳を傾けていただいたことを覚えています。そして内分泌疾患のみならず患者さんの背景や合併している他疾患への鋭い質問に答えられず、自身の医師としての力のなさを痛感しました。一方で病棟にて学ばせていただくにつれ、生涯を通じて内分泌疾患と向き合っていくべき患者さんに寄り添えるように内分泌疾患をしっかり学びたいと思うようになり、先生のいらっしゃる内分泌代謝科で学びたいと強く思いました。

入局後は医師としての仕事と子育てとの両立がうまくいかず、何度も先生に「大丈夫か」とお声かけいただきご心配をおかけしました。不出来な私は先生に何度もレポートの指導を受け、どうにかこうにか糖尿病専門医を取得できましたが、合格通知を見て大泣きする私に「よかったじゃない」と笑顔でお祝いの言葉をかけていただきました。先生は、医師としても人としても若輩者の私に、外来診療、学会発表の場などたくさんの方で多くの言葉をおかけくださりました。またいつも丁寧にご指導いただけたことは感謝という言葉だけでは言い表せません。

石橋先生と言えばスキー旅行、花見、納涼会といろんな行事で奥様と連れ立っておられたのが印象的です。照れくさそうな先生の隣にはいつも笑顔の奥様がいらっしゃいました。奥様からもいつもやさしいお言葉をいただき感謝しています。また教室では見ることのできない先生のエピソードなどや先生のお姿が見れていつもいつも楽しかったです。

昨年新しく羽生で開業された際には見学会で、「僕のクリニックを家内が手伝ってくれることになったんだよ」とやはり照れくさそうにおっしゃる先生と笑顔の奥様!!お二人が本当に睦まじくおられたことが忘れられません。いつまでも奥様を大切に、ご家族も大切になさっている姿を見て私も見習わせていただきたいと思いました。

最後になりましたが、どんな形であれ、今後も私は先生の教室で学ばせていただいたことを忘れず精進していきたいと思っております。先生におかれましてはご夫婦でますますのご健康とますますのご活躍をお祈りしております。

20 年大変お世話になりました。 そして今後とも何卒よろしくお願い申し上げます

永島メディカルクリニック 永島 秀一



石橋先生、20 年にわたりご指導本当にありがとうございました。言葉や文字では表すことができないほどの御恩をいただきました感謝の気持ちと、おそらく私が石橋先生の自治医大人生で一番ご迷惑をおかけしてしまったという申し訳ない気持ちと、そして総合すると(心苦しいのですが)、ものすごく幸せだった 20 年が思い出され、本稿を書き始めて早々に泣きそうになっております。

石橋先生が自治医大内分泌代謝科に教授として赴任された 2001 年に、私は自治医大で医師 1 年目として働き始め、2003 年に研修医として石橋先生に初めてお会いしました。当時は怖い教授先生が大半のなか、とにかく優しい先生でいらっしゃいました。そして指導医でいらした野牛宏晃先生(現筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 内分泌代謝・糖尿病内科教授)と、山梨大学の先輩医局員でいらした藤田延也先生(現ふじた糖尿病内分泌内科クリニック院長)にお誘いいただき、2004 年に先生の下で医局員として生活を始めました。私は 2020 年に自治医大さいたま医療センター内分泌代謝科に准教授として推薦いただき異動しましたが、その後先生が 2023 年に退官されるまで栃木自治の外来も継続させていただきましたので、2003 年から 2023 年まで、ちょうど 20 年、みっちり先生にご迷惑をおかけしたことになります。

思い出がたくさんありすぎるのですが、まず入局早々に、皮下脂肪と内臓脂肪組織の違いについての総説を書くよう仰せつかりました。今もそうですが、当時も謎の多い領域で、調べはじめるときがなく、楽しすぎて締め切りを月単位で過ぎてしまいました。暖かく見守ってくださいました。その後、消化器外科、婦人科症例から術中に皮下脂肪と内臓脂肪組織をわけていただき、そこに発現している各種 TG lipase の役割の違いについて研究を始めさせていただくことになりました。当時は素人でしたのでピンときておりませんでした。先生が世界の第一人者である TG lipase 群の発現を、ヒト脂肪組織で確認するというアイデアは本当にすごいことだったと思います。ただ私の研究スピード、論文化が遅すぎて申し訳ございませんでした。

その後大学院に入学後は、コレステロール合成酵素群の臓器特異的な遺伝子欠損マウスの研究をさせていただきます。野牛宏晃先生が実験環境のかなりの部分を整えてくださっており、かつ対象がドメジャーな分子であったので、大学院生としてはかなり贅沢なスタートでした。しかし出てくるデータはネガティブであるいは予想外の嵐で、解釈にドはまりしたあげく、これも大幅に論文化が遅れてしまい申し訳ございませんでした。

以上のことから、おそらく私が石橋先生の自治医大人生で一番のボトルネックだったかと思えます…。ただ石橋先生のご指導のもと、私のあとを引き継いでくれました武井暁一先生、祥子先生ご夫妻の手により、世界に先駆けてスタチンと糖尿病の新たな関係が見いだされて発表できたことは大きな喜びでした。

その後も私なんぞを病棟医長、外来医長、医局長に任命くださり、さらには、さいたま医療センター内分泌代謝科の准教授にまでご推薦いただき、本当に感謝申し上げます。

そして 2023 年、石橋先生が退官されたのちに開業されるというビッグニュースが飛び込んできました。そこで私も急速に開業について思いを巡らせはじめてしまい、ついには 2024 年 4 月に開業してしまいました。せっかく先生に引き上げていただきましたのに、そして石橋先生イズムを後進に十分に伝えることができず、大変申し訳ございませんでした。ただ私としては、現在進行形でクリニックスタッフ、導入機器、算定(生活習慣病管理料 I と II をどう仕分けるか?) の相談などをさせていただいており、先生と繋がっていただけるという身勝手な安心感があります。

20 年間本当にありがとうございました。また、こんな私ですが今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ご指導いただきましてありがとうございました

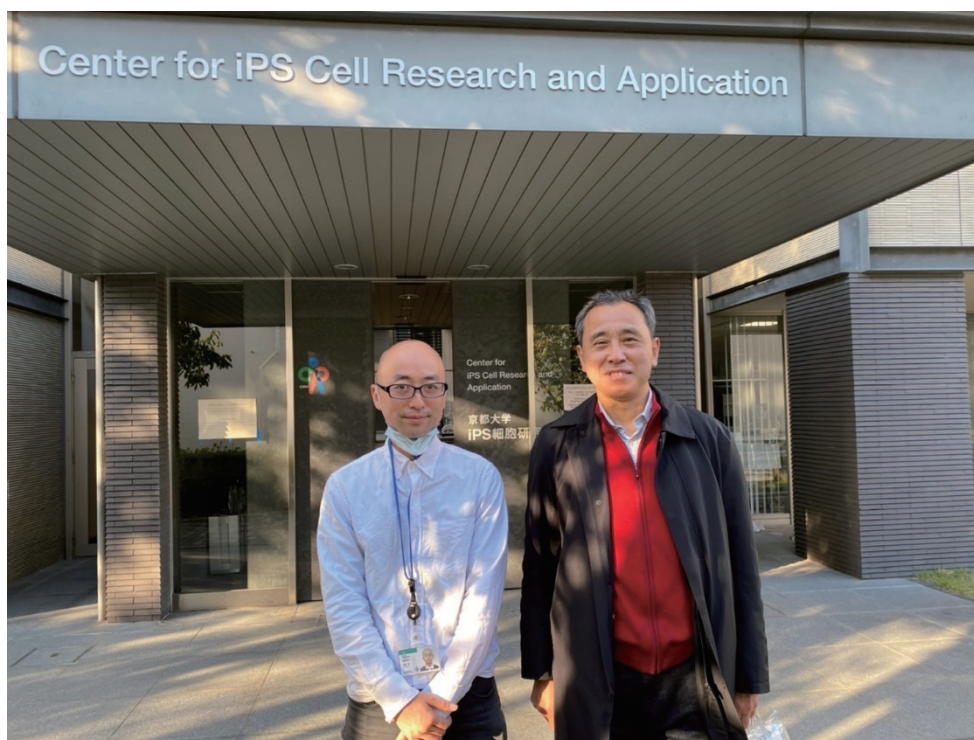
京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門 博士課程学生

畑野 悠

22 年余りという長きに渡る教鞭の末、ご退官誠におめでとうございます。私は自治医科大学医学部生として、石橋先生が先導する糖尿病内分泌内科で初めての病棟実習を経験させて頂きました。非常に温かい病棟の雰囲気に学生ながら感動しておりました。その後、2017 年度から 1 年余り自治医大卒業生後期研修医として受け入れて頂きました。学生時代同様、非常に **at home** な科の雰囲気であり、素晴らしい勤務環境の中で臨床経験を積むことが出来ました。これを可能とさせた先生のご人徳に深く感謝しております。

先生のご方針のおかげで、**general** な糖尿病内分泌科医として訓練できる場であり、わずか 1 年足らずの研修でしたが非常にたくさんの症例を外来から入院に渡るまで拝診出来ました。発表のチャンスも多く頂き、たくさんの経験が出来ました。カンファレンスでも英語で発表をする事をお許し頂き、英語表現に至る事まで先生から学ぶ事が出来ました。私自身の海外留学の際も、推薦状を大変熱心にご記載頂き、先生のサポートもあり留学を果たすことが出来ました。私の帰国後は、現座在学中の iPS 細胞研究所までお越し頂き、先生と久方ぶりにお会い貴重な時間を共有させて頂きました。

私自身は今後も糖尿病研究者かつ臨床医としての道を深めていきたいと思っております。何卒引き続きご指導ご鞭撻を賜る事が出来れば幸いです。我々自治医大医学部生をはじめとする多くの若者をこれまで導いて頂きまして誠にありがとうございました。



2021 年 10 月京大 CiRA にて

Greetings from Mongolia: to our beloved professor Ishibashi.

Director, Postgraduate Institute of Mongolian National University of Medical Science T.Bayasgalan(バイイサ)
Cardiologist, Intermed Hospital, Mongolia E.Bolormaa (ボギ)

Dear Ishibashi sensei

Almost 15 years have passed since we first met on my third day in Japan as a graduate student at Jichi Medical University. Yet, it seems just like yesterday.

At that time, every graduate student from Mongolia, China, and Thailand who had been studying at JMU told me how lucky I was that you were my supervisor. Indeed during my and our family's stay in Japan for seven years, you were kind, generous, and supportive in various parts of our life.

I was genuinely happy and speechless when you supported my wife, Bolormaa (Bogi), for admission to a Ph.D. course as a graduate student and a department member as much as myself. Your decision and support have opened a new chapter in our life. With your excellent guidance and daily support from you and other faculties, including Nagashima sensei, Yagyu sensei, Osuga sensei, Manabu sensei, Oshiro san, Tazoe san, Hoshino san, Bogi and I successfully received the Ph.D. degree from Jichi Medical University.

Every Wednesday, during data meetings, when I presented my successful or failed work, you shared your advice, starting with a quote, "if I were you," charged me with self-confidence to complete the given tasks. Still, whenever I challenge some difficulties in my research here, in Mongolia, I occasionally think: what would Ishibashi sensei do? Your broad knowledge in clinical and research fields, generous consultation in every matter, and your natural manner as a scientist/physician have guided us to become better since then, for we are eternally grateful.

In addition to being our mentor, Bogi and I have memorized you as a loved husband and father, a gentleman who keeps up with the modern lifestyle with a youthful mindset.

On behalf of my family, we wish you a very peaceful and happy life ahead, knowing that your soon-to-be-opened clinic will prosper and succeed.

Whenever we have a chance to visit Japan, we will make sure to come and see you in order to express our respect and gratitude to you as our mentor, supervisor, and simply as our DEAREST PROFESSOR.

With much love and respect



石橋先生、大変お世話になりました

内分泌代謝 OB 村上 明子

石橋先生、この度はご退官誠におめでとうございます。寄稿の機会をお借りして、石橋先生には大変お世話になり、感謝の気持ちを述べさせていただきます。

石橋先生にはカンファレンスで困った症例を相談すると優しくご教授して下さい、先生との面談の際には困っている事がないか先生から聞いて下さって、とても話やすく相談しやすい環境を作して下さいました。また、大学院卒業後も自分の苦悩や事情について理解を示して下さい、助力頂き、大変お世話になりました。心より感謝の気持ちを申し上げます。今後の先生の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



蔓巻公演での BBQ にて

石橋俊先生との思い出

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター
内分泌代謝・糖尿病内科

野牛 宏晃



石橋俊先生、長い間自治医科大学内分泌代謝学部門の発展にご尽力され、本当にお疲れ様でした。定年でのご退任を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

石橋先生に初めてお会いしたのは、私が28歳の時に東京大学第3内科11研究室で研究生生活を開始した時です。当時、山田信博先生が研究室の長であり石橋先生は長兄的な存在でしたが、石橋先生は研究素人の私を4年間に渡りご指導下さり、お陰様で研究成果をあげると共に医学博士を習得できました。東京大学の研究生生活はアニメ「巨人の星」の星一徹の千本ノック、「タイガーマスク」の虎の穴の様な厳しさで、午前0時前に帰宅することなど殆ど無く睡眠を削っての実験漬けの毎日でした。自らの手で新たな知見を得るという研究の醍醐味、論文作成・査読者への回答など多くの事を石橋先生から学べましたし、あの生活が無ければ海外留学への一歩も踏み出せなかったと思います。

米国NY州コロンビア大学留学中の2001年9月11日に、テロによるワールドトレードセンター爆破事件が起きました。NY州が異様な空気に包まれる中、いち早く安否確認の連絡を下されたのが石橋先生であり大変嬉しかったです。その後、石橋先生が自治医科大学の教授にご就任され、お声がけ頂き私も自治医科大学へ移りました。世界の中心ともいえるNY州マンハッタンから自治医科大学のある栃木県下野市に初めて来たときには見渡す景色の違いに戸惑いましたが、石橋先生へのご恩返しは今しかないと考え、微力ながら研究室の立ち上げに尽力しました。実験室、RI室、動物飼育室の整備、実験助手の採用、大学院生のリクルートなど大変な事も多く、石橋先生には良く愚痴を聞いて頂きました。ふとした会話の中で「野牛は同じ釜の飯を食べる同志」と言って頂き、部下ではあるが同志でもあり頼りにして頂いていることが光栄でした。その後、大須賀淳一先生、永島秀一先生、高橋学先生、田副文子先生、大城太一先生、坂井謙斗先生らが集まったことにより研究室の礎が完成したと思います。またコロンビア大学で隣の研究室に所属していた岡田健太先生がその後教室の一員となり、また留学当時私のボスであったIra J. Goldbergと石橋先生が現在も親しく連絡を取るなど、なんだか不思議な感じがします。

石橋先生は多くを語らず背中で見せるタイプで、優しく尊敬できる先生でした。突然の仕事依頼など無茶振りも多々ありましたが、石橋先生の部下として働けたことが何より幸せであり大きな財産となりました。自治医科大学を離れて随分と時間が経ちましたが、様々な問題に直面すると「石橋先生であればどうするのだろうか」と今でも考えることがあります。

石橋先生の奥様、大変お疲れ様でした。東京大学時代から継続して開催されていたホームパーティーは楽しかったです。また、自治医科大学での花見などにもご参加頂き、アットホームな雰囲気皆が楽しむことができました。

ご退任後は石橋先生にとって所縁の地でご開業をされると伺っており、診療を第一にまだまだご活躍されることと存じます。奥様と共にお二人の益々のご健勝と末永いご多幸を心よりお祈り申し上げます。

11 年間の感謝を込めて

内分泌代謝 OB 山岡 桂子

石橋俊先生におかれましては、自治医科大学内分泌代謝学における教授職を終えられ、無事ご退官を迎えられることに対し、心よりお祝い申し上げます。

専門分野での卓越したご業績に関してはすでに多くの先輩方が述べておられると思いますので、私は先生との思い出を辿ってみたいと思います。

先生に初めてお会いしたのは病院見学をした大学 6 年時。見学を一通り終えた後に教授室でお会いしました。とにかく緊張している私に、にこやかに接して下さったのが印象的で、次第に緊張がほぐれていくのを感じました(でも、何をお話下さったかはやはり緊張で覚えておりません、申し訳ありません)。その後無事自治医科大学にて初期研修をスタート、1 クール目の研修が第一希望の内分泌代謝科で期待に胸を膨らませておりましたが、時に上手くいかないことがあり落ち込んでいる際は、「大変なことがあったのでしょうか？大丈夫？」と、専門的なご指導に加え精神面にもお気遣い頂き、恐縮したことを今でも鮮明に覚えております。

入局した後は、育児と仕事の両立に悩むことも多々ありましたが、時に石橋先生から、時にこちらから相談させて頂き、様々な解決策をご提案頂くことで幾度となく前を向き直し、少しずつでも前進出来たと思っております。診療面でも、未熟な自分の足りない所をそっとご指導下さるので色々と質問しやすく、先生のご意見を聞いて診療の視野が広がっていくのを日々実感しておりました。

石橋先生は、見ておられない様でこちらの様子をしっかりと見ておられ、その時々丁度良いタイミングで声を掛けて下さるのでいつも救われておりました。先生のその努力を怠らず、かつ趣味も充実させ人生を謳歌される姿勢は私の目標です。今後ますますのご健康とご活躍を祈念しております。

石橋先生との思い出

山崎内科医院 山崎 久隆

石橋先生、長きに渡り自治医大でのお勤めお疲れさまでした。また新たにご開業おめでとうございます。私と石橋先生との出会いは私が研修医時代に日本内科学会の関東地方会で SITSH の症例を発表し当時病棟の大ベンだった安藤明彦先生、中ベンだった野口(旧姓:高橋)仁麗先生と一緒に都内で食事会を開いてくださったのが最初でした。入局当初より先生の優しいお人柄に惹かれ内分泌代謝科の分野に興味もあり入局したのを覚えております。何より1番の先生との思い出は私が大学院に入る前(2013年3月)にカナダのバンクーバーで行われたキーストンシンポジウムにご一緒できたことです。研究はもちろん英語もろくにできない自分に「山崎の最終目標だから」と言われ午前中は学会に出席し午後はスキーリゾート地であるウイスラーへ行きスキーをしに行くという今思えば夢のような出来事でした。ゴンドラで山の間地点(それでもかなり急斜だったと思いますが)まで上がり「山崎、どっちに行く?」と言われ、急斜面を選択したのが運命の別れ道だった気がします。石橋先生は颯爽と降りて行く一方、私は「転げ落ちる」といった方が妥当でしょうか(更に先生はなんと当日の早朝にホテルのランニングマシンで走ったとの話を後から伺い恐れ入りました!)。当然私は石橋先生のお荷物だったと思いますが手を貸して頂きなんとか山の麓まで助けて頂きました。斯くして私は大学院に入ったわけですが今思えばこのスキーと同じような体験を大学院生活でもしていたのかもしれない。大学院2年目にして共同研究者とトラブルとなり与えられていた研究テーマを変更せざるおえない状況(転げ落ちる)となりました。しかしながら先生は打開策を導いて頂き高橋学先生ご指導のもと動脈硬化形成におけるマクロファージの泡沫化の研究を一部担わせて頂き卒業するまでに至りました。その後も最終的に日本動脈硬化学会では若手研究者奨励賞まで受賞することができ石橋先生のご指導がなければ成し得なかったことは言うまでもありません。ご一緒した数十年間、先生のユーモア溢れるお人柄と優しさに支えられ体力・知力・精神力共にただ尊敬するばかりでした。それ以外も先生のご自宅にお邪魔したことや医局のイベントで大はしゃぎした記憶も懐かしい思い出です。アカデミックな分野に没頭できず夢のキーストン学会での発表目標?には届きませんでした。先生のおかげで七転び八起きの精神を養えたことは私の財産です。大変お世話になりました。いまだに臨床の場で悩んだ時にフッと先生のお顔を思い出す時があり背筋が正されることがあります。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



大切な思い出をいただきました

さいたま記念病院

渡邊 秀平

石橋 教授、ご無沙汰しております。この度はご退官おめでとうございます。

長年にわたるご功績に心から敬意を表します。在職中には一方ならぬご厚情とご指導を賜り誠にありがとうございました。

お教えいただいたこと、お世話になったことをはじめ、色々思い出されます。

内分泌代謝科のカンファレンスや論文作成、予演会等での厳しくも暖かいご指導には、勉強させて頂くことは勿論、未熟者の私にとっては精神面においても大変励まされました。

また車で一緒頂いたスキー旅行では、私がどれだけ頑張っても追いつけない先生の滑るスピードやその進路の正確さを目の当たりにして、どこか先生の生き様と重なり、感服しておりました。入局前にご自宅に伺った際には、奥様の美味しい手料理をご馳走になりながら、仕事場以外で初めて先生とお話させて頂き、その暖かく懐の深いお人柄に触れ、入局したいと強く感じたこと、今でも鮮明に覚えております。医局旅行や忘年会のカラオケで一緒させて頂いた際には、先生の柔らかなお気遣いにより、普段であれば恐縮してしまうところを心から楽しく歌えたこと、まだまだ記憶に新しいです。

数え切れないほどの先生との大切な思い出がございます。感謝しております、本当にありがとうございます。最後にはなりますが、先生の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りしております。今後とも何かとお世話になる機会があると存じますが、その際には何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

I graduated from the Jichi Medical University in 2011. During the 4 years in Jichi Medical University, I learned the basic and clinical knowledge of endocrine and metabolic diseases, especially dyslipidemia, from Ishibashi sensei, established a research direction, and continued to carry out research in this field after returning to China. The research results were published in such journals as *Atherosclerosis*, *Frontier in Endocrinology*, and I also started teaching graduate students. My study and life in Japan are the most memorable and happy days of my life.



岡崎 啓明

見知らぬ研修医の電話相談にも親身に教えて頂いたのがきっかけで、臨床に研究に多くを学ばせて頂き本当にありがとうございます。今後のご多幸を心より祈念しております。

岡田 健太

ご退官おめでとうでございます。ご在任中はひとかたならぬご厚情とご指導を賜り、深く感謝しております。末ながいご多幸をお祈りいたします。

永島 秀一

石橋先生、これまで大変お世話になりました。20年のご指導いただきましたのに未だ未熟で申し訳ございません。また本当にありがとうございます。

倉科 智行

石橋先生ご退官おめでとうでございます。18年を振り返り様々な思い出が去来しますが、医師として先生のご指導を受けられたことは本当に幸いでした。ありがとうございます。

若林 徹治

石橋先生、これまで本当にお世話になりました。臨床・研究共に、先生にご指導頂いたことが自分の礎となっております。今後新天地での益々のご活躍を祈念しております。

竹田 幸代

石橋先生、本当にお世話になりました。時短でありながら臨床を続けてこられたのは先生のお陰だと本当に感謝しています。今後のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

武井 暁一

石橋先生、御退官おめでとうでございます。臨床、研究とたくさんご指導いただきありがとうございます。今後の益々のご活躍を祈念しております。

武井 祥子

御退官おめでとうでございます。臨床においても研究においても御指導いただき誠にありがとうございます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

近藤 泰之

定年退官おめでとうでございます。学会発表や今後の論文作成等のご指導誠にありがとうございます。羽生市でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

岸川 理加

石橋先生、ご退官おめでとうでございます。さいたまから私を受け入れていただき、短い間でしたがお世話になり、ありがとうございます。いただいたストーブ大切にします！笑

櫻井 百恵

臨床で多くをご指導頂いたことは勿論ですが、一番印象に残っているのは日光登山です。私も先生を目標に百名山登山を目指します。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

藤田英理子

石橋先生ご退官おめでとうでございます。つくばから異動してきた私を快く迎えてくださり、臨床を続けさせて頂いたことに大変感謝しています。ありがとうございます。

甲賀 裕希子

ご退官おめでとうでございます。入局してから様々なご指導を頂き、その中で自分のやりたい事もやらせて頂き、感謝しております。今後益々のご活躍を祈念致しております。

岡 聖典

私のような比較的低層部下にも優しく接していただき、感謝するばかりです。先生が認めてくれたことが私にとって大きな励みになりました。先生から教えていただいたことを胸に今後も研鑽してまいります。

加藤 夏果

御退官おめでとうでございます。日頃の病棟診療から学会発表まで、ご指導いただきありがとうございます。先生から教えていただいたことを胸に今後も研鑽してまいります。

木村多恵

長い間ありがとうございます。また、クリニックのほうでは患者さんのこととお世話になることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

檜垣 仁人

ご退官おめでとうでございます。カンファレンスを通じてご指導頂き、ありがとうございます。今後のご健康とご活躍をお祈り致します。本当にありがとうございます。

堀越 裕樹

ご退官おめでとうでございます。短い間でしたが、先生の下でお仕事ができ大変楽しく思っております。これからもお身体を大切に、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

菊地 栄作

短い間でしたが、カンファレンスなどを通し内分分泌代謝学の診療をご教授いただきましてありがとうございます。これからも益々のご活躍を祈念しております。

澁谷 浩史

ご退官おめでとうでございます。これまで学会・論文発表、研究、臨床と数々のご指導をありがとうございます。教えて頂いたことをこれからも大切にしていきたいと思っております。

澤山 清

ご退官おめでとうでございます。これまでのご功勞に敬意を表し、感謝申し上げます。今後のご健康と、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



御退官 心より御祝い申し上げます

岡田 修和

石橋先生、長いあいだお疲れさまでした。しかしまだこれらのご活躍されることと感謝しています。いろいろと配慮いただき感謝しております。たいへんありがとうございます。

山崎 久隆

石橋先生、大変お世話になりました。七転び八起きのご精神を養ったのは先生のおかげです。先生には感謝しきれません。今後とも宜しくお願い致します。

馬場 千恵子

ご退官おめでとうでございます。看護外来開設など本当にお世話になりました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

荒井 則子

ご退官おめでとうでございます。異動初年度で不慣れな私にも診療科ヒアリングなどでご支援いただきありがとうございます。今後のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

新井 菜美

ご退官おめでとうでございます。外来でもご支援いただき本当にありがとうございます。益々のご活躍を祈念しております。

野口 清美

益々のご活躍を祈念いたします。

林 美賀

長い間の教授職を無事終えられ、おめでとうでございます。ご責任の重い時期から本当にお世話になり、ありがとうございます。今後、益々ご活躍されることを願っております。

瀬下 美帆子

ご退官おめでとうでございます。大変お世話になりました。新天地での活躍をお祈り致します。

山本 慶子

ご退官おめでとうでございます。そして長年のお勤めお疲れ様でした。先生のお陰で成長の場を与えて頂きました。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

本嶋 惠美

退官をお送りするのは2人目ですが、先生の教壇人生の最後に伴われ光栄に思います。今後お忙しくとも患者様の健康だけでなくご自身もお忘れなく、ご多幸を祈念いたします。